

厚生経済学の基本定理

「厚生経済学の基本定理」は、完全競争市場均衡が定める資源配分がパレート効率的となる条件、また、社会が必要とするすべての財サービスが完全競争市場で効率的に供給されるための条件を示している。

I. 資源配分の効率性

A. パレート効率性

1. 判断規準

a. 資源配分の変更による「パレート改善」—— パレート優越な配分への移行

(1) 誰も悪くならない (効用が低くならない)

(2) 少なくとも一人が良くなる (効用が高くなる)

b. パレート効率的な資源配分

(1) パレート改善の余地がない。

(2) 誰か一人を良くしようとする、他の誰かを悪くしなければならない。

2. 交換経済の効率的な配分 —— 消費の効率性の問題

a. 交換経済の意味

(1) 生産は行われない。

(2) 交換される財サービスとその量は定まっている。

b. エッジワースのボックス・ダイアグラムによる説明

(1) 無差別曲線の接点

(2) 契約曲線 (contract curve)

B. パレートの効率性規準の特徴

1. 難問を回避

a. 効用の大きさを測ることができるか。

b. 異なる人の効用の大きさを共通の単位に換算できるか。

2. 弱い判断基準

a. 複数の効率的な配分

b. 公正、公平の判断不可

II. 厚生経済学の基本定理

A. 第一基本定理

外部効果のない経済では、完全競争市場の均衡で定まる資源配分はパレートの意味で効率的である。

B. 第二基本定理

費用逓減産業がない経済では、どのようなパレート効率的な資源配分も、資源の初期配分を適当に変更したときの完全競争市場均衡の資源配分と一致する。

III. 競争均衡条件とパレート効率性条件の比較

A. パレート効率的な資源配分

1. 資源の完全な分配 (利用されずに残っている資源がない)

2. 限界代替率の均等化

B. 完全競争均衡の資源配分

1. 需要供給の均衡
2. 価格の仲立ち

IV. 基本定理の説明 —— 交換経済の場合

A. 第一基本定理

1. 需要供給の均衡 → 資源の完全利用
 - a. 交換前の配分（初期配分）と交換後の配分の関係

各財ごとに： 交換前の配分の総和 = 交換後の配分の総和

b. 市場に表れる需要量と供給量

交換後の配分 > 交換前の配分： 市場の供給

交換後の配分 < 交換前の配分： 市場の需要

2. 価格の仲立ち → 限界代替率の均等化

a. 限界代替率と市場価格の関係

各人ごとに： 限界代替率 = 相対価格（価格比）

b. 完全競争市場の均衡価格： 一物一価

B. 第二基本定理

1. 初期配分と完全競争均衡の関係：

異なる初期配分から出発すると、異なる競争均衡にたどり着く。

2. 契約曲線上の資源配分

各配分に対して、それが競争均衡配分となるような初期配分が必ず一つある。

参考文献

教科書・第 9 章，第 2 節，133-139 ページ。

参 考： 提供曲線（Offer Curve）

提供曲線の意味

- (1) 初期配分によって定まる予算制約線と無差別曲線の接点を繋いだ曲線
- (2) 相対価格の変化によって需要供給量がどのように変化するかを示す。

提供曲線の交点

- (1) 市場均衡 — 交換前の配分の状態に依存
- (2) 限界代替率の均等化